

## 会 議 録

会 議 名	令和元年度第 2 回野田市老人福祉計画及び介護保険事業計画推進等委員会
議題及び議題毎の公開又は非公開の別	1 「介護予防 10 年の計」の実施状況について（公開） 2 指定介護予防支援業務の委託について（公開） 3 介護医療院の開設許可等について（報告）（公開） 4 地域密着型サービス（地域密着型通所介護）事業所の指定更新について（報告）（非公開）
日 時	令和元年 11 月 20 日（水） 午後 1 時 30 分から午後 2 時 30 分まで
場 所	市役所高層棟 8 階大会議室
出席者氏名	会 長 金本 秀之 委 員 土田 隆司            秋田 茂            渡邊 隆 石原 和子            大用菜穂子        遠山 康雄 白島 智子            松田美奈子        山崎 美紀 山名 裕里            矢野 博            渡辺 亮 須賀田貞彦          篠田恵美子        宮田恵美子 森田 邦子            三輪 秀民        小山三恵子 高橋 武宜            太田 央子        内藤 公子
欠席委員氏名	委 員 荒木なおみ        筑井 正            中村 綾子 小山 絹子            山本由紀子        谷田貝多吉 藤井 愛子            丸山 克俊
事 務 局	直井 誠（保健福祉部長） 富山 芳則（保健福祉部次長兼生活支援課長） 大月 聡（高齢者支援課長） 小林 智彦（障がい者支援課長） 中代 英夫（保健センター長） 小島 信明（国保年金課長） 善方 浩子（高齢者支援課長補佐） 秋山 敦哉（高齢者支援課高齢者支援係長） 宮田 朋之（高齢者支援課いきがい施設係長） 小林 豊（高齢者支援課いきがい施設係主査） 渡邊 祐二（高齢者支援課主事） 安藤 剛行（介護保険課長兼地域包括支援センター長） 東風谷 一（介護保険課長補佐） 田嶋 秀志（介護保険課介護予防係長） 西野 寛史（介護保険課介護給付係長） 中山 理恵（介護保険課介護認定係長）

	久保 祐介（介護保険課地域包括支援センター主査） 林 晋也（介護保険課主任主事） 石川よし子（介護保険課主事補）
傍 聴 者	無し
非公開の事由	地域密着型事業所等の指定等に関して、個人情報に関する箇所があること及び事業所の指定に関して公平な審議を行うため
議 事	令和元年度第2回野田市老人福祉計画及び介護保険事業計画推進等委員会の会議結果（概要）は次のとおりです。
金本会長	令和元年11月20日 午後1時30分、開会を宣言 新委員の山名委員、矢野委員、渡辺委員を紹介
介護予防係長	欠席の委員を報告した。 会議録作成のため録音機を使用することの了解を求めた。 非公開の審議について報告した。
金本会長	会議の成立を報告した。 発言及び会議の公開と傍聴について説明した。
金本会長	議題1 「介護予防10年の計」の実施状況について 議題1について、事務局から説明を受けた。 質問等を委員に問うた。
篠田委員	シルバーリハビリ体操の指導士になるには、年齢制限はあるのか。また、六日間の講習を受講すると全員が指導士になれるのか。
介護保険課長	シルバーリハビリ体操に年齢制限はない。自由に参加していただいている。ただし、若い方には物足りない体操であると考えているが、動きが筋肉の維持や関節の動きの改善、維持といったことが目的となっているため、高齢の方であれば意味があると考えている。 次に、講習会を受講すれば受かるのかについて、これは丸々1日の講習を6回受講し、最後にレポートを提出することで、基本的には全員受かるということになっている。6回のうちどこかで休んだ場合は、次の講習会で同じ回を受講し、レポートを提出することで、指導士になれる。
篠田委員	指導士の年齢制限がないということは、教える側と教えられる側に年齢差が出てくる。私たちの二川地区でも、何度かお願いしたが、指導士の年齢が高く、教えられる側の年齢が若く苦情がきた。そういう場合は、どのように処理するのか。

介護保険課長	<p>基本的には、丸々1日の講習会を六日間受けることで、体操の動きだけでなく、一つ一つの体操の各部位への効果を勉強していただいている。したがって、年齢が上の方の指導であっても、講習会を受講していない方は知らない部分、例えば着替えをする際の腕の動きや、そういう動きを維持するための体操を指導していただける。</p>
篠田委員	<p>体操についての問題ではなく、高齢の指導士が本を読みながら指導しており、説明の仕方や言っていることが分からない。そのことについて聞きたい。</p>
介護保険課長	<p>それについては、市民が市民を指導するというのがシルバーリハビリ体操の一番の特徴。市民が指導士であるため、人によってレベルの上下は当然ある。それについては、指導士を養成する養成講師が様々な会に出席することで、フォローアップを行っている。多少たどたどしい部分もあると思うが、少しずつ養成講師が指導士を指導していくため、見守っていただきたい。</p>
篠田委員	<p>指導を受けた日も打合せをする時間がかかりあったが、あの時間は一体何をしていたのか。打合せをしていれば、しどろもどろにならなくていいのではないか。やはり、年齢制限は必要であると思う。指導を受ける側の年齢もかなり若くなっている。</p>
金本会長	<p>これは、年齢の問題ではなく、適正の問題である。高齢者でもしっかりしている方はしっかり指導できるため、フォローアップできちゃんと指導していただき、適格な人にちゃんと指導していく方向で進めていきたいと思う。高齢になったら道が閉ざされるような野田市ではいけないと思う。是非、御協力をお願いします。</p>
篠田委員	<p>分かりました。年齢が余りにも違いすぎた。体操は良くやっていた。</p>
金本会長	<p>その他、質問等を委員に問うた。</p>
三輪委員	<p>我が国は「超高齢社会」から「重高齢社会」に入っているとされている。すなわち、後期高齢者の方が前期高齢者よりも多くなるという段階にきている。前期高齢者の要介護になる確率は大体4%と言われているが、後期高齢者は32%から33%である。正に、要介護状態になる方が急速に増えてくると懸念される。そういう中で、野田市は、3年前から「介護予防10年の計」として総合的に取り組んでいること</p>

	<p>は、大変結構なことと思う。</p> <p>シルバーリハビリ体操は、指導士になることによって、この人たちも要介護状態にならないことが期待されるので、この仕組みは大変結構なものだと思う。シルバーリハビリ体操について、2点質問したい。1点目は、指導士は、ボランティアとして活動していると思うが、報酬や交通費などを支払っているのか。2点目は、地域での指導士会が、どのように参加者を募集し、どういう体制で指導しているのか。徐々に応募者が少なくなっていくことの鍵になると思う。令和元年度の1回で10人しかいないということなので、お伺いしたい。今後、指導士がこれ以上増えないということになると、展開するのが厳しくなると思う。</p>
介護保険課長	<p>まず、指導士への報酬については、令和元年度より、報償として、市から指導士会へ体操教室1回につき千円を支払っている。その報酬を指導士会から指導士に支払ったり、あるいは交通費として使用していただければと思っている。</p> <p>次に、募集については、こここのところ低調であるため、我々も問題視をしている。このまま、同じ場所で養成講習会を行っていても人が集まらないと考えているため、来年度は、養成講習会を閉宿地域でも実施していくことを検討している。</p>
金本会長	<p>その他、質問等を委員に問うた。</p>
白島委員	<p>シルバーリハビリ体操については、まだやり始めで、定着もしておらず、やっていく中で現実的な問題が上がってくると思う。指導士の育成に関しては、フォローアップもあるので、徐々に育っていくと思うが、課題や問題点に対する取りまとめはどうなっているのか、実際にやっているのかを教えてください。</p>
介護保険課長	<p>指導の仕方については、指導士会は、地域ごとに支部を作っており、その中で定期的に会合を開き、どのようにしてやっていくのか等の打合せをしていると聞いている。</p> <p>養成講師が体験教室を見に行っているので、その中で体操の仕方を含め気が付くことがあれば、その都度、時間を設けて指導している。それとは別に、保健センターで月に一回フォローアップ教室も実施し、指導士の指導をしている。</p>
白島委員	<p>やっていることへの指導は良く分かったが、そうではなく、現場で起こっている問題点を取りまとめて、それに対して今後の方向性について考えていくところはあるのか。</p>

介護保険課長	指導士会では、月に一回役員会を開いており、そこで地域の問題点や今後の方向性等について話している。本日は、指導士会の高橋会長も本委員会に出席しているため、指導士会の役員会で、このような話があったということを取り上げていきたいと思う。
白島委員	例えば、開催場所でアンケートをとり、参加者から出た感想をいかしていくというのはどうか。
介護保険課長	本日、配布した資料にあるが、参加者に対するアンケートを年に2回実施しており、自由記載欄の内容を取りまとめて指導士会に渡している。
白島委員	これは延べ人数で、実際には重複して受けている方もいると思う。シルバーリハビリ体操は、実人数で何名の参加者がいるのか。
介護保険課長	参加者の名簿は、持っていないため、実人数の集計はできていない。事前申込みが必要ない自由参加の形をとっているので、誰が何回来ているかは把握していない。
白島委員	広げていくには、一人の方が数十回参加するというよりは、多くの方が参加した方が介護予防になると思質問した。
金本会長	いろいろな問題があると思う。 その他、質問等を委員に問うた。
矢野委員	今の質問に関連するが、資料2ページにある体操教室の参加人数が出ているが、同じ参加者が何度も出ている可能性が大いにあると思う。野田市の高齢者のうち参加者数は何%を占めているのか興味があるため、明確に教えていただければと思う。 それと、6ページの「のだまめ学校」の出前講座参加者が目標1,920人に対して、実績が552人、目標を達成することは困難と書いている。私は野田市自治会連合会の副会長と川間台自治会の自治会長をやっている。私たちは、非常に高齢者が多いので、出前講座を年に3回実施しており、参加者が20人から30人程度集まっている。出前講座は、3回目まで無償で4回目以降は有償となると聞いている。参加者も講座の内容を忘れるので、2か月に1回はやってほしいという話が出ているので、無償の回数を増やしていただきたい。また、私たちは、川間地区に所属しており、毎年秋に運動会をやっている。今年は、地区に高齢者が多いため、ウォーキン

	<p>グ大会をやろうと決めた。ウォーキング大会の前に、のだまめ学校のウォーキング基礎講座を実施してから始めようと計画を立てた。残念ながら台風の影響で中止になった。そのときの講座が有償だった。当たり前だと言われればそこまでだが、当然予算措置はされていると思うので、余裕があるのであれば、そういうことにも拡大解釈し、お願いしたいと思う。</p> <p>最後に、7ページのシルバーリハビリ体操の対策としてある「初級指導士が活動計画に基づき地域に自主的に体操教室を開催します」の「自主的」というのが、当事者にとっては非常に大変ではないかというイメージを受けた。私たちの自治会連合会は、当然各地域に自治会、社会福祉協議会、いきいきクラブといった組織体があるので、そういった組織体と連動、協調して計画を立てて開催する等の対策をとれば、より参加者が増えてくるのではないかと感じた。</p>
金本会長	市に意見を問うた。
介護保険課長	<p>2ページの延べ人数については、何回重複しているのかは、市では把握できていないため、全体の何%ぐらいなのかは、現状では分からない。現在、来年度に策定する第8期野田市シルバープランの審議に先立ち、アンケート調査を実施している。後ほど、最終のアンケートの情報を説明する。アンケート調査の中で、のだまめ学校やシルバーリハビリ体操の認知度や参加状況について調査しているので、統計的なものにはなるが、どの程度参加しているか分かると思う。</p> <p>それから、年3回の回数は、大変申し訳ないが、これは市の方で制限している。地域の方々から、月に1回ぐらい来てほしいという意見を頂いているが、なるべく多くの場所に向向いていきたいと思っている関係で、回数を制限している。費用面の問題もある。来年は、このような意見や土日にやってほしいという要望もあるので、条件を緩和できないか検討しているため、よろしくお願いしたい。</p> <p>最後に、自主的という言葉に対する意見については、シルバーリハビリ体操の基本的な理念は、市民の方が市民に指導して広めていくということ。指導士は、様々な場所で声を掛け、自分たちで開催場所を開拓し、ロコミ等でシルバーリハビリ体操の良さを紹介し、体操教室への参加を促している。市も、自治会の役員会や地区社協等で説明し、「介護予防10年の計」への協力をお願いしている。市でも周知をしていきたいと考えている。</p>
金本会長	貴重な市民からの意見であるため、検討いただきたい。

<p>須賀田委員</p>	<p>「介護予防 10 年の計」を大変細かく実施していただき感謝申し上げる。高齢者団体の代表として話させていただく。</p> <p>市民ボランティアや介護予防サポート企業については、企業や団体にやっていただくもので、シルバーリハビリ体操、のだまめ学校、えんがわは、私たち高齢者は受ける立場のものが多いため、身近なものとしてお話しさせていただく。</p> <p>シルバーリハビリ体操とのだまめ学校については、市で大変こまめにやっており、問題はあるにしても市民や高齢者に浸透しているため、大変有り難く思い、健康づくりに携わっている。しかし、それにも問題がある。シルバーリハビリ体操やのだまめ学校について、通っていくという形の健康づくりが多いが、なかなかそこに行けない高齢者が結構いる。えんがわができることによって、大きく改善されていくのではないかと思ひ、この点についても、大変うれしく、有り難く思っている。ただし、今後えんがわを 40 か所作っていくプランがあるが、10 年目にできたのでは遅いと思う。1、2 年で 40 か所の会場が決まり、そこで多くの市民や高齢者が受けられるようになると有り難いと思う。計画だけでなく、実践の方も引き続きやっていただけるようお願いしたい。それぞれの課題として、シルバーリハビリ体操は講習会の参加者の低下、のだまめ学校は各地区への講座が広がっていないということがあり、周知できていないことが反省として出ている。私たちも本日、のだまめ学校の出前講座を利用したが、地域でやっても会場に来るのが大変という方が増えてきた。現状として、公民館や保健センターに行くのは大変で行けないという方が随分いる。そういう面でも、えんがわが充実することでその課題が解決していくと思う。大勢の市民が参加し、行ける場所として、地域にできるだけ早く入っていただき、課題が解決できるようにお願いしたい。また、予算についても、やりやすい形でできるようにし、えんがわを助けていただくと、市民も高齢者も助かると思う。</p>
<p>金本会長</p>	<p>移動のための足がないことから、多くの人数が集まらなくても、様々な場所で多数開設できる体制がとれると、より参加者が増えると思う。これの一番の問題点は、受け身ではない。市からではなく、市民が実際に動く。10 年間かけて、我々が身に付けていかなければならない問題だと思ひ。そういう考えを皆さんにお持ちになっていただきたい。</p>
<p>白島委員</p>	<p>えんがわについて 2 点聞かせていただきたい。1 点目は、地域包括支援センターの会議でも地域の問題点として行くまでの足の問題が良く出る。えんがわを広げるに当たって、野田市報で楽しそうにやっているところや、開催側のやってみて良かった点などを PR していくと、興味がある層を発掘</p>

<p>金本会長</p>	<p>し、広げられると思う。 2点目は、矢野委員の意見に、高齢者率が何%かという質問があったが、アンケートの中に年齢を入れると、ある程度どのぐらいの割合なのか分かると思う。</p>
<p>須賀田委員</p>	<p>ほかに意見を問うた。</p> <p>私たちの老人会では、月に1回、健康な方が集まりニュースポーツや体操の先生による柔軟体操を中心にやっているが、経費が掛かるため、徐々に開催回数が減っていく。趣味活動の講師を呼ぶのに会費を使用するわけにもいかない。そういったときにえんがわは利用できるのか。利用できるのであれば、他の団体にも声を掛けられる。</p> <p>地域によっては、自治会や老人会、婦人会等の団体に声を掛けると地域に広がると思う。声を掛けたらやるわけじゃないと思うが、それが合えばやると思う。そういう団体をいかし、広げられないかを考えていただければと思う。</p> <p>現在、様々な手を尽くしてきたが、自分たちでやっていくのは難しい。一人ではできず、継続するのが難しい。そこが今までできない原因ではないかと思う。市民に気持ちがあっても声に出さない、形に出ないところだと思う。ここではそういう論議ができる。自治体と市民がお互いにできることを探りあっていくことが大事だと思う。市民の3分の1が老人と言われているが、老人会の入会者は4,000人程度。</p> <p>そういうものをいかしながら進むことが成功につながっていくと思う。</p>
<p>金本会長</p>	<p>市に意見を問うた。</p>
<p>介護保険課長</p>	<p>えんがわは、須賀田委員の意見のとおり、地元の会合やサロン等がえんがわの対象となる。そういった話がある場合は、介護保険課に相談していただければと思う。</p>
<p>金本会長</p>	<p>議題1について、了承として良いか。</p> <p>&lt;異議無しの声有り&gt;</p>
<p>金本会長</p>	<p>議題2 指定介護予防支援業務の委託について 議題2について、事務局から説明を受けた。 質問等を委員に問うた。 質問等無し。 議題2について、了承として良いか。</p> <p>&lt;異議無しの声有り&gt;</p>

金本会長	<p>議題 3 指介護医療院の開設許可等について 議題 3 について、事務局から報告を受けた。 質問等を委員に問うた。 質問等無し。</p> <p>議題 4 は、野田市情報公開条例に基づき非公開</p> <p>午後 2 時 30 分、閉会を宣言</p>
------	--